

平成 4 年 1 0 月 1 5 日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 Tel0428-23-6859)

冬のバードウィーク

青梅市内で野鳥の数が多くなるのは1年のうちいつ頃だと思いますか。春は鳥達の囀りも賑やかですし、バードウィークがあり、あちこちで探鳥会（自然観察会）も盛んに行われます。そんな様子から、春（繁殖期）が鳥の数の最も多い季節のような感じがします。確かに、春の繁殖期は鳥達にとり、自分達の子孫を残す1年中で最も大事な季節です。ところが、数という量的なことになると春ではないのです。

実際に鳥の数をある一定の方法で調べてみると、市内の鳥の数は一般的に冬～早春の寒い時期に1年間で最も多くなります。御岳山の山の上でも、小曾木や大荷田の丘陵地でもこの傾向があります。例えば、市内南東部の大荷田地域の雑木林では、1月に最も多くなり、8月に最も少なくなったというデータがあります。この年の1月と8月とではその数が3倍近い差が見られました。ここで数というのは個体数を言っているのですが、種類数ではどうでしょうか。やはり、種類数でみても多いのは1月（31種）で、8・9月に最小（各15種）となっています。

春～初夏にかけての繁殖期に、鳥達は各々の番いで、ある広さを持った縄張りを持ちます。ある地域の中に収まる縄張りの数には限度があり、生活できる鳥達の密度はあまり高くありません。夏～秋になると鳥達は囀らなくなるので目立たなくなります。と同時に、夏鳥と冬鳥の入れ替わる時期にもなりますので、鳥の数は一時的に減少します。そして、冬、寒くなると北の国高い山から、寒さを避けるために多くの鳥達が暖かい所、エサの豊富な所へ移動、集中して群れを作ります。すると、そのような地域での鳥達の棲息する密度は高くなります。このようなわけで、市内の鳥の数は冬～春先にかけての寒い時期に多くなるのです。青梅では、まだ身近にみられる雑木林は、鳥たちの繁殖地だけではなく、冬の越冬地としても、とても大事な場所になっています。

紅葉が終る頃、冬鳥達が次々と渡来してきます。ジョウビタキなどのように渡来する時期の早い鳥は10月も半ばを過ぎると姿を見せることもあります。冬の鳥というと色彩の地味な鳥というイメージもあるのですが、なかなかどうして。赤や、黄色や、青色をしたカラフルな鳥がかなりいます。森や林は落葉しているので、視界も広く鳥達の姿が探しやすくなっています。寒いことを別にすれば、鳥達に親しむのに適当な時期なのです。バードウィークは5月の繁殖期だけではなく、冬の寒い時期にもあっていいのではないかと思います。

(文責 桜岡幸治)